

21周年総会・記念講演会を開催

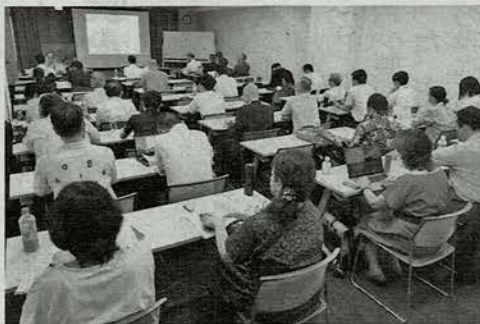
繊維リサイクル技術研究会

「環境重視型に世の中が急変」



木村照夫委員長

（一社）日本繊維機械学会・繊維リサイクル技術研究会（委員長・木村照夫京都工芸繊維大学名誉教授）は7月8日、設立21周年総会・記念講演会（第144回情報交換会）をハイブリッド開催した。大阪科学技術センター（大阪市）会場とオンラインでの合計で約120人が参加。「これからの繊維リサイクル



会場のようす

を考える」をテーマに話題提供と2題の講演が行われた。同研究会は2001年に設立。現在は、アパレル企業や故繊維業者、リサイクル関連事

業者、学識者など法人27社・個人62人が加盟し、業界の川上から川下まで幅広いネットワークを構築している。総会では今年度事業計画として、年々3〜4回の情報交換会の他、冊子「循環型社会と繊維」の続編の出版準備や「廃棄学校制服のアップサイクルによる衣類ごみ減量化」が承認された。9月には「な

んばマルイ（大阪市）での共催イベントも予定している。講演会の話題提供は、木村委員長が「繊維廃材の現状とリサイクルの動き」をテーマに行った。これまでの研究活動の沿革と社会の変遷を解説し、「世の中のムードが経済重視から環境重視型に急変してきた。SDGs

やサーキュラーエコノミーの取り組みが進む中、持続可能社会の構築に向けて貢献していきたい」と呼び掛けた。記念講演では、「繊維・衣服の生産から流通・消費・リサイクルまでのライフサイクル

を通じた循環型ファッションの実現に向けて一ステークホルダーワークショップによる課題と提言」と題し、平尾雅彦氏（東京大学大学院工学系研究科化学システム工学専攻教授）が登壇。続いて、「Colour Recycling System」サーキュラーエコノミーにつながる新しいリサイクルのかたち」と題し、内丸もと子氏（colour loop社）が色をベースにした繊維のアップサイクルについて紹介した。

リクラ 着物を手編み物
リクラ（金沢市、河誠人社長）は、捨られる着物やタンスに眠ったままの着物を、ハンドメイドの素材に

ま生協の組合員が行う資源循環活動となる。同リサイクル製品を回収し、ハートフルコープとくしま工場で洗浄・分別し、リサイクル

しま生協の個人宅配車両で使用するという循環を構築した。

ガラスびん3R促進協議会（東京・新宿、山村幸治会長）は7月6日、東京都内で開催した2022年度事業計画の説明会で、21年度のガラスびんのリサ

用の促進に取り組み新たな取り組みとしては、リユース対策は▽びんリユースシステムの環境優位性の発▽関係主体へのリ

DIY ブロックチェーンで履歴追跡
廃プラ対象、実証実験開始
大手ファインケミカルメーカーのDICは、プラスチックの資源循環を促進するため、SAPと連携しブロックチェーン（分散型台帳）技術を使用した廃プラチップの使用した廃プラチップのトレーサビリティ（生産流通履歴の追跡）システム構築の実証実験を開始した。SAPのGreen Track Systemを利用

プラスチックリサイクルのプロデュースや関連機器販売を手掛けるMSCC（仙台市、麦谷貴司社長、mssc.jp）

石



es

中でコア処理・輸出を続けているのか。次世代リアルリサイクルする

処理・輸出を続けているのか。次世代リアルリサイクルする

リアルリサイクルする